



3・4年 総合学習：宝生水産(5/31)



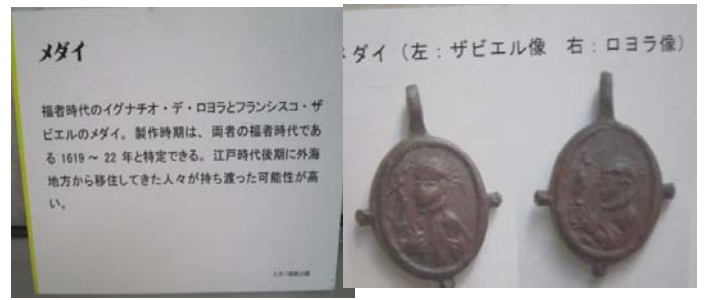
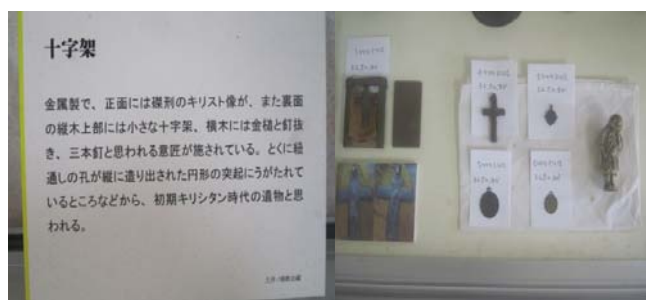
由来

寛永元年五島藩主三子代盛利は、キリシタン弾圧を誇示するたの教会の伝道士カリストを若松から一里ばかりのタウトに於て処刑した。彼は日向に生れ、豊後、有馬で布教し、五島に渡り、二十七年間、若松を根拠地として、各地に伝道し、キリシタンの父、教師と慕われた。役人に囚われて行くカリストの後を追うキリシタン達に、不朽のお恵を下さる神様を讃美するよう諭し、刑場では友人に別れ手紙を書き、晴衣に着替へ、刑吏に感謝の詞を述べ、イエス、マリアの御名を唱へて首をはねられた。

時は、一六四四年四月十九日、享年五十七才であった。ここにカリストの崇高な殉教を讀み、顕彰する。

二〇〇一年九月

カトリック土井ノ浦教会



3・4年 総合学習: 土井ノ浦教会(5/31)